

# 令和7年度12月日田市実施分学力調査の結果について

## I 調査の概要

### (1) 実施期日

令和7年12月18日(木)

### (2) 調査対象学年

小学校全学年      中学校1・2年生

### (3) 調査内容と受検者数

#### 【小学校】

	国語	社会	算数	理科
1年	378		378	
2年	438		438	
3年	434		435	
4年	420	430	430	429
5年	442	444	444	444
6年	429	429	429	429

(単位：人)

#### 【中学校】

	国語	社会	数学	理科	英語
1年	435	434	435	434	434
2年	428	432	427	434	432

(単位：人)

### (4) 用語の説明

◇正答率：全設問に対して児童生徒が正答した割合（集団の場合は平均値）

◇標準スコア（偏差値）：全国値の正答率を50とした時の換算値

2 令和7年度調査結果の概要

※表の各学年の下段「R6標準スコア」は、同一集団の昨年度の数値

(例 【小学校2年生】 上段：今年度の数値 下段：現小2の小学校1年生時の数値)

【小学校】

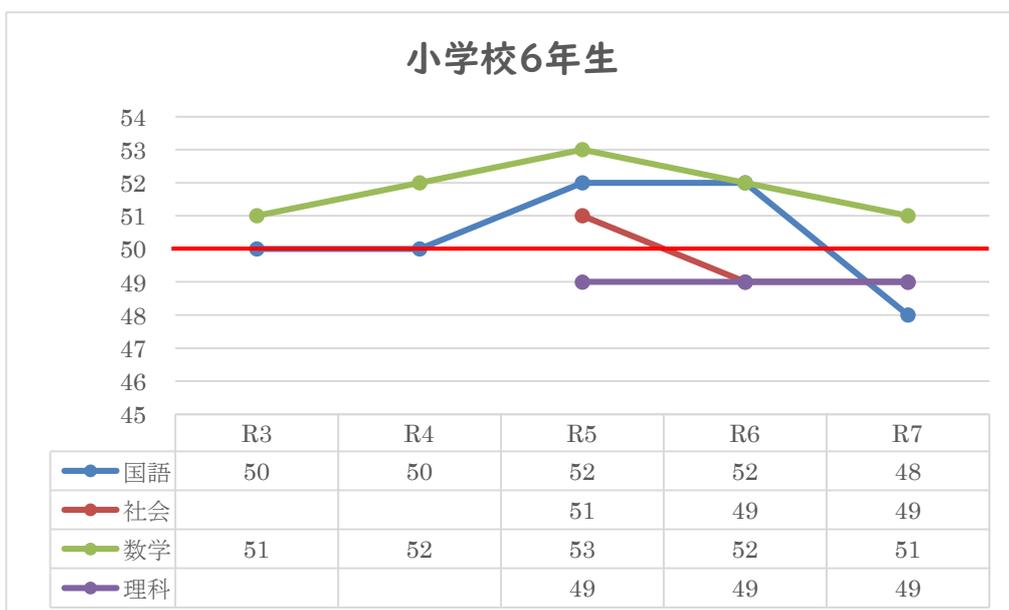
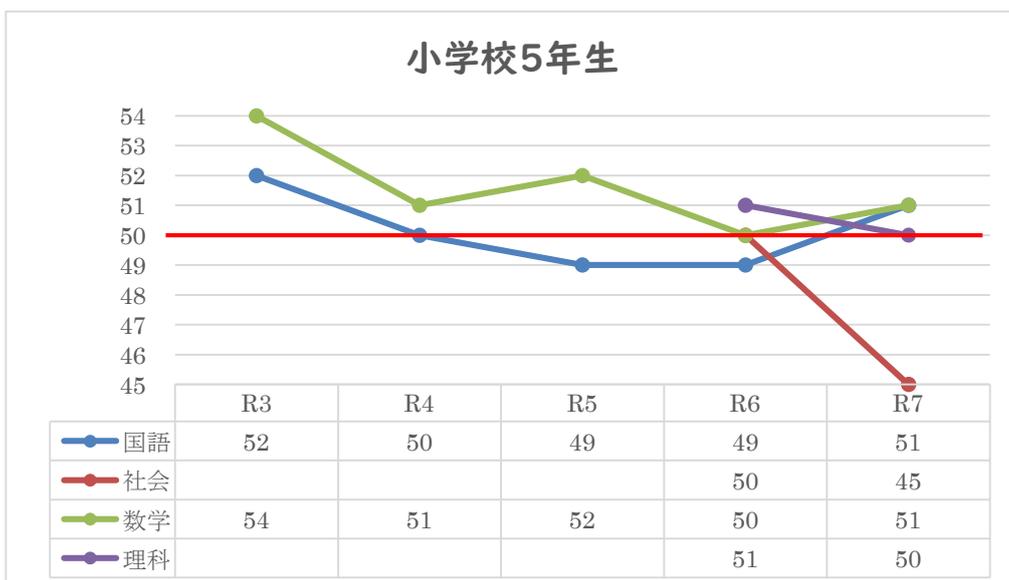
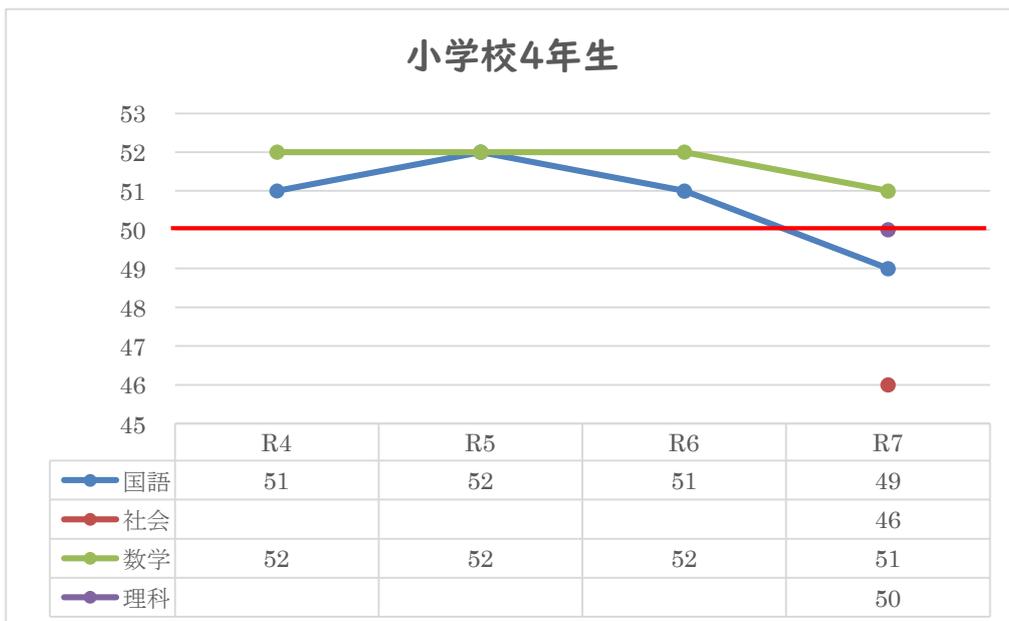
学年	1年生		2年生		3年生		4年生			
教科	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
R7標準スコア	51	51	49	49	48	48	49	46	51	50
R6標準スコア			50	50	51	52	51		52	

学年	5年生				6年生			
教科	国語	社会	算数	理科	国語	社会	算数	理科
R7標準スコア	51	45	51	50	48	49	51	49
R6標準スコア	49	50	50	51	52	49	52	49

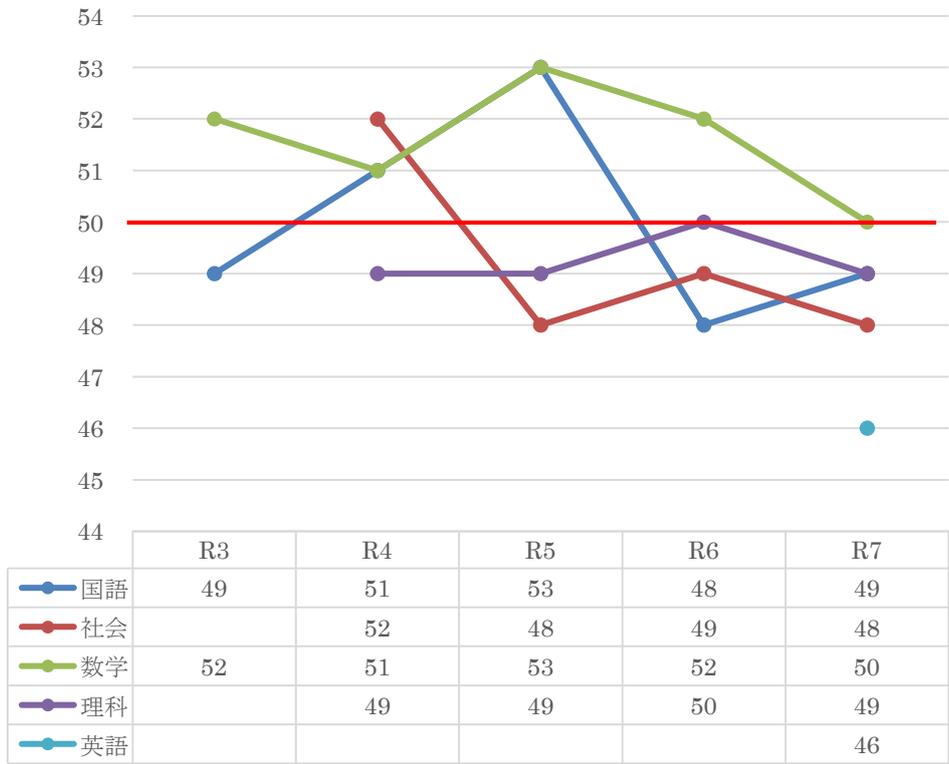
【中学校】

学年	1年生					2年生				
教科	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
R7標準スコア	49	48	50	49	46	49	49	47	48	46
R6標準スコア	48	49	52	50		51	50	49	49	44

### 3 標準スコアの推移（同一集団経年比較）



### 中学校1年生



### 中学校2年生



## 4 結果と分析

### 【小学校】

#### <結果>

- 標準スコアは、〔1年国語・算数〕〔4年算数〕〔5年国語・算数〕〔6年算数〕で全国値以上。
- 国語は3年生を除く全ての学年で「文章を書く」が全国平均を大幅に上回っており、3年は全国平均には及ばないが、目標とする値はクリアしている。
- 国語・社会・理科において、知識・技能が標準スコア50を下回った。
- 5, 6年の理科、4, 5, 6年の社会は、年度を継続して課題が見られる。

#### <分析>

- 国語において、授業中での書く機会の保障、短時間学習での条件作文の指導等、日々の指導の成果が見られる。
- 5年国語では、同一集団（令和5年度・令和6年度）で標準スコア50を下回っていたが、昨年度より2ポイント上昇したことから、課題を基に授業改善を進めた効果と考えられる。
- 算数は標準スコア50を上回っている学年が多かったことから、1時間で付きたい力を明確に持ったうえでの授業が実践されている成果と捉えられる。
- 国語・社会・理科において、基礎基本の事柄が定着できていないことがわかった。知識・技能の定着が不十分な理由には、短時間学習（帯時間）が時程表から少なくなり、補充時間の減少が要因の一つとも推測される。
- 理科・社会は、この3年間で標準スコア50を下回ることが多く、単元テスト等において定着を測っているものの、理解できていない・定着できていないまま時間が経過していることが懸念される。

### 【中学校】

#### <結果>

- 多くの教科で標準スコア50を下回った。
- 国語は、標準スコアで全国値を下回っていたが、1年生、2年生ともに「文章を書く」は全国値を大きく超えている。
- 英語は、昨年度と比較して標準スコアが約2ポイント上昇している。
- 1, 2年生ともに、社会・理科において、知識・技能で標準スコア50を下回っている。

#### <分析>

- 国語は、小学校と同様に、授業中で書く機会の保障、条件作文の指導等、日々の指導の成果が見られる。
- 1, 2年生ともに英語の「基礎」「活用」や3つの観点のすべての項目で標準スコア50を下回っていることから、授業においては「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の4技能5領域をバランスよく配置した単元構想が必要である。
- 英語について、特に、2年生においては、学習内容が難しくなったにもかかわらず、同一集団で比較しても2ポイント上昇していることから、英語科の授業改善や、学校全体の組織的取組の成果と言える。
- 社会・理科については、単元テストや定期考査等で定着を図っているものの、補充が十分にできずに時間が経過していることが懸念される。

【質問調査】

＜各教科の理解度と愛好度の状況（学校独自アンケート）＞

- ・ 4月調査を受検した小5・小6・中2における、理解度・愛好度の4月と12月との比較
- ※色付き部分は好転した教科

	小5	日田市 (12月)	大分県 (4月)	小6	日田市 (12月)	全国 (4月)	中2	日田市 (12月)	大分県 (4月)
愛好度 (%)	国語	73	64	国語	65	69	国語	69	63
	社会	66	59	社会	73		社会	76	56
	算数	64	62	算数	64	62	数学	59	55
	理科	82	78	理科	77	83	理科	64	65
	外国語	81	76	外国語	75		英語	51	41
教科の勉強は好きですか。	国語	92	94	国語	90	85	国語	87	88
	社会	89	88	社会	87		社会	84	72
	算数	82	87	算数	82	81	数学	76	75
	理科	91	95	理科	88	90	理科	76	79
	外国語	89		外国語	84		英語	68	53
理解度 (%)	国語	92	94	国語	90	85	国語	87	88
	社会	89	88	社会	87		社会	84	72
	算数	82	87	算数	82	81	数学	76	75
	理科	91	95	理科	88	90	理科	76	79
	外国語	89		外国語	84		英語	68	53
教科の授業の内容はよく分かりますか。	国語	92	94	国語	90	85	国語	87	88
	社会	89	88	社会	87		社会	84	72
	算数	82	87	算数	82	81	数学	76	75
	理科	91	95	理科	88	90	理科	76	79
	外国語	89		外国語	84		英語	68	53

※4件法(とても好き・好き・あまり好きではない・まったく好きではない)で、肯定的2項目の割合

※4件法(よく分かっている・だいたい分かっている・あまり分かっていない・まったく分かっていない)で、肯定的2項目の割合

＜結果と分析＞

- 小学校5年生においては、すべての教科において、愛好度が12月の調査で数値が高くなった。
- 中学校2年生においては、全体的に理解度・愛好度ともに数値が高くなった。
- 上記の結果から、児童生徒の興味関心や個別の実態に応じた授業改善が進められている成果だと考えられる。

5 今後の取組

(1) 年間通じた日田市統一の取組

①【授業改善】

全ての児童生徒が「わかった」「できた」と感じる授業づくり。

②【補充学習】【家庭学習】

継続して基礎基本の力を培う。補充学習と家庭学習で、確実に学習を定着させる。

③家庭との連携

(2) 12月調査後の各学校の取組

①調査結果と各教科の愛好度と理解度調査の分析から、「具体的改善策」を作成する。

- ・改善策（授業改善・補充学習・家庭学習）に基づき、年度内に定着が不十分な単元や領域について補充の学習を行う。
- ・A Iドリル（ドリル・シート）、問題データベース、MEXCBTを積極的に活用する。
- ・春休みの宿題は、各学年の一通りの学習内容と併せて、年度末までの改善が十分でない学習内容について学年部で統一したものを課す。

②春休み外国語教材（市教委作成）を、全小学校6年生に共通教材として課す。【小中接続】

③愛好度・理解度を含めた結果資料及び分析結果を次年度の学年部へ引き継ぎ、年度を跨いで継続した指導を行う。

④来年度以降の授業改善（具体的にどこで定着の時間を確保するか、組織的な取組に向けた改善を行う。）